

第2回北区立中学校部活動地域連携検討会議
会議録

日 時：令和6年8月22日（木）午後6時30分～午後8時03分
場 所：北とぴあ スカイホール

開会

1. 中学校部活動状況調査結果について
2. 中学校部活動への要望アンケート結果について
3. 課題整理
4. 計画策定の基本的方向
5. その他報告事項

閉会

<配付資料>

- 資料1 令和6年度 中学校部活動状況調査まとめ
- 資料2 中学校部活動への要望アンケート・参考資料
- 資料3 アンケート結果から見る、部活動地域連携に向けた課題やポイント
- 資料4 北区部活動地域連携の基本的方向

出席者 東京藝術大学演奏芸術センター准教授
東洋大学健康スポーツ科学部スポーツ科学科講師
中学校長会代表（稲付中）
東京都北区体育協会専務理事
スポーツ推進委員王子地区会長
北区文化振興財団事務局長
北区立中学校PTA連合会会長
東京ヴェルディ株式会社女子事業推進部ディレクター
城北信用金庫コミュニケーション開発事業部次長
／東京城北アスリートクラブ
Palette Works LLC代表

欠席者 中学校体育協会理事長（飛鳥中）

事務局

教育振興部長

教育振興部参事【検討会議運営・計画策定担当】

学校支援課長【部活動指導補助員担当】

生涯学習・学校地域連携課長【地域主体の部活動担当】

教育指導課長【学校主体の部活動担当】

(他、事務局担当者)

質疑応答

○会長

皆さん、こんばんは。それでは、定刻となりましたので第2回の北区立中学校部活動地域連携検討会議を始めさせていただきたいと思います。

本日も、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、計画策定の基本的方向性を決定してまいります。

まず、配付資料の確認です。事務局のほうからお願いいたします。

○事務局

それでは、本日の資料確認をさせていただきます。配付資料でございます。次第の下の枠内に記載のとおり、資料1から4までを配付しております。会議を進めてまいります。書類の不備等ございましたらご用意させていただいておりますので、お気づきの際にお知らせくださいますよう、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○会長

それでは、次第に沿って進めさせていただければと思います。

初めに1番、中学校部活動状況調査結果についてです。こちら事務局からお願いいたします。

○事務局

それでは、私から資料1、中学校部活動状況調査まとめの結果について、ご説明いたします。資料1-1をご確認ください。

各校の活動状況を把握するため、学校別の部活動配置状況、部活動指導員を希望する部活動の有無、合同部活動の実施状況について調査を実施いたしました。

この資料1-1の表でございますけれども、この表は各中学校の部活動ごとに所属している部員数をまとめたものでございます。上段に運動部、下段が文化部です。黄色く塗られている部活動は男女別の部活動で、男子の部活動と女子の部活動の合計を示しております。右側に行くと合計がありまして、部活動ごとに所属している人数の合計を示しております。

前回、第1回の会議でお示した令和5年度の調査と比較いたしますと、運動部では、ほぼ全校に配置されている部活動というものは人数が多いこともあり、増減の幅が小さいというのが特徴でございます。一方、文化部は部活動の種類が多岐にわたり、1部活当たりの人数が少ないために、人数の増減の変化が大きくなっております。

続いて、資料1-2をご覧くださいませでしょうか。

部活動指導員を希望する部活動の有無についてです。各校から回答がございました。1校で複数希望がある場合は、優先度が高い順に記載をしております。ここを見ただけですと、バスケットボールや陸上部で複数校から希望するという回答がございました。一方、希望なしと書かれている学校の中でも、後ほどご説明させていただきます。

まず個別の教員向けアンケートにおいて、いろいろな意見が寄せられているというような場合もございました。

続いて、右側、合同部活動の実施状況についてございます。各校ご覧のとおりの実施状況です。一部の中学校では私立の学校との合同部活動を実施しているということも、この調査をもって分かりました。

資料1について、私からの説明は以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきましてご質疑、ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(なし)

○会長

それでは特にございませんでしたので、次の議題に進めたいと思います。

次に議題の2、中学校部活動への要望アンケート結果について、入らせていただきます。

こちら事務局的ほうからご説明をお願いします。

○事務局

そうしましたら、お手元に資料2と書かれたホチキス止めの資料をご用意いただければと思います。

では、資料2のご説明させていただきます。中学校部活動への要望アンケートということで、小学校6年生の児童、小学校6年生の児童の保護者の方、中学生の生徒、中学生の保護者、そして中学校の教員という形で、皆様にアンケートを取った結果を、このホチキス止めの資料、資料2に一式でまとめましたので順を追ってご説明させていただきます。

まず1ページ目、小学校6年生児童の回答状況でございます。回答数としましては、1,178、回答率52.7%でございました。

資料をおめくりいただきまして、資料2ページ目、小学校6年生児童、問2、上段のグラフでございます。こちらにつきまして、児童が習い事をしているかということで、複数、ないしは一つ以上の習い事をしている児童が多いということが結果として分かりました。

次に下段、来年の中学校入学予定校、入学予定先について回答いただいたところによりますと、北区立中学校進学割合は約6割となっております。

資料多岐にわたりますので、主だったものを中心にご説明させていただきます。ページをさらにめくっていただいて、4ページ目までお進みいただければと思います。

4ページ目、上段、中学生になったら入ってみたい部活はありますかという問いで、80%の生徒が「ある」と答えております。今、習い事をしている児童が多い中でも

部活動をやりたいという需要が高いことが、こちらで見ていただくことができると思います。

続きまして、下段の間7でございます。中学生になったら入ってみたい部活は何かという問いでございます。こちら間7につきましては、4ページ目の下段、こちらの男女合計の数値でございます。次の5ページ目の上段で、男子のみ抽出した数字。続いて、5ページ目下段で女子のみ抽出した数字ということで、間7を三つのスライドに分けて表しております。

まず、4ページ目、男女合計のスライドからご説明させていただきます。男女合計の表、スライドの中に二つ表があるんですけども、表の左側、こちらが事務局のほうで用意した選択肢の中から選ばれたものの多い順に並べております。右の表はその他ということで、児童が記述したもの、こちらも多い順に並べているところでございます。それぞれ上位10種目を抽出しまして、北区立中学校の中でも、北区立中学校の値は、進学予定先の北区立中学校において希望する部活動はない回答数を抽出しているものでございます。

男女合計欄を見ていただきますと、選択肢の部分、左側の表を見るとバドミントン、バレーボール、サッカーという順に需要が高いというところが結果として出てまいりました。

右の表のその他の記述欄を見ていただきますと、男女合計でダンス、水泳という形で需要があるというところが集計等して出てまいりました。

先ほど、この回答が北区立中学校においては希望の部活動はない回答数を抽出しているとお伝えしたところでありまして、抽出をしていない、抽出前の全てのデータにつきまして、こちらのスライドには掲載をしていないんですけども、別のホチキス止めの資料、資料2の後ろに、ちょうど後ろにつけてございますA3縦長、資料2、参考資料という形でA3縦長のホチキス止めの資料、大変細かい表になってしまって恐縮なんですけれども、抽出前の全てのデータを掲載した資料もご用意してございますので、後ほどご覧いただければと思います。

スライドの先ほどの資料2に戻っていただきまして、5ページ目ですね。中学生になったら入ってみたい部活動、男子のみの集計結果も5ページ目上段の表のとおりでございます。バドミントン、バレーボール、吹奏楽・ブラスバンド・演奏と。その他の記述のところではeスポーツ、鉄道という形になっております。

女子のみの結果につきましては、選択肢の部分でバドミントン、サッカー、陸上競技。記述のところではダンス、水泳という順番になっております。

ページをおめくりいただきまして、7ページまでお進みいただければと思います。

7ページ上段、問10、部活動に求めるもの。こちらについては「楽しさ」が最多になっておりまして、次点は「仲間との交流」というふうになっておりました。

続いて、下段ですね。問11、先生以外の資格のある指導者から専門的な指導を受けたいかどうか。「思う」「やや思う」という肯定的な意見が6割というふうになってございます。

ページをおめくりいただきまして、8ページ目、上段でございます。新しい部活動の形ですね。合同部活動や地域クラブ活動とか、新しい部活動の形を選択してみたいか

どうかというところの問いでございます。結果としましては、肯定的な意見が5割を超えたというところでもあります。

続きまして、下段の表ですね。問13、他校の生徒との活動について、どう思うか。こちらについて、肯定的な意見、他校の生徒とも合同で活動してみたいという意見が約5割ですね。一方で、「不安がある」「自校のみでよい」というところも大体3割程度あったというところでございます。

そして次のページ、9ページに進んでいただきまして、どこまでの範囲なら足を延ばして新しい部活動に参加したいかというところで、大体広いエリアというか、多い順で自転車、次いでバス、次に区内であればどこでもいいというところで、広いエリアを希望する傾向があるなというところで見とれます。

ここまですが小学校6年生児童の結果でございます。

続きまして、11ページ目まで進んでいただきまして、小学校6年生の保護者の方からのアンケートの結果に進めさせていただきます。回答数934、回答率30.2%でございました。

11ページ目下段、お子様が部活動に参加する際に、期待するものでございます。最多は「仲間との交流」、次いで「楽しさ」でございます。実を言うと、児童本人は楽しむことが最多だったんですけども、保護者からすると最多は「仲間との交流」を挙げていたというところでした。

ページをおめくりいただき、12ページ目でございます。

上段、教員以外の資格のある指導者から専門的な指導を子どもに受けさせたいかというところでございます。「思う」「やや思う」が8割を超えているということで、教員以外の方からの指導というのも受けさせたいと思われているというところが見とれます。児童が6割だったところから比べると、児童よりも保護者からのニーズが高いというところが見とれます。

続いて、12ページの下段ですね。新しい部活動の形、合同部活動や地域クラブ活動について、選択してみたいかどうかというところでございます。こちらについても肯定的な意見が8割以上を占めているというところで、児童は5割だったというところからすると、保護者としては子どもの希望がかなえられれば新しい形も選択肢の一つというふうになっているのかなというところが見とれます。

ページを進んでいただき、13ページ上段ですね。問4、他校の生徒との活動については肯定的な意見が9割を占めて、児童の回答では5割だったというところで、児童のほうが割と慎重な回答があったというところですよ。

続いて、下の問5ですね。どこまでなら参加してよいか、参加する希望のエリアについては、保護者はなるべく近場というか、近くを回答している傾向が多いということで、「自転車」を挙げた方が一番多く5割、次いで「徒歩」、「バス電車」が続いているというところで、なるべく近場を保護者は希望しているというところですよ。

ページをおめくりいただき、14ページ目でございます。上段のグラフ、費用負担についての問いでございます。年間幾らぐらいまでなら負担してよいというところで、結果の平均を取りますと、年間1万8,500円、月にならすと1,550円というところで費用負担してもよいという回答がございました。

ここまで、小学校6年生の保護者の回答でございます。

続きまして、15ページ目からは中学校生徒からのアンケート結果でございます。回答数1,446、回答率31.2%でございます。

ページをおめくりいただいて、飛んで17ページ目の下段を見ていただければと思います。

17ページ目、下段、問5、活動している部活動、所属している部活動はありますか。ここで88%の生徒が活動している、参加しているという形で高い参加率が見てとれます。

続きまして、ページをおめくりいただいて18ページ。こちら、現在所属している部活動の表でございます。上の表が、18ページ上段がこちらで選択肢として用意した部活動を選択した数、18ページ下段は生徒が記述したものをまとめた数となっております。

上段の表はバスケットボール、バレーボール、ソフトテニスという順番で多くなっていて、下段の表では水泳、創作部、茶道という順番で、今所属している活動で回答がありました。

続いて、19ページ上段でございます。所属している部活動を選んだ理由ですね、こちらにつきまして、「やりたい部活動があったから」というところでの回答が一番多い状況なんですけども、上から四つ目、選択肢4のところですね。「やりたいと思っていた部活動が学校になかったから」ということで、一定数、158の回答で、そういったところでやりたい部活動がなかったのも、やむなく選んで入っているところも浮かび上がってまいりました。

同じページの19ページ、部活動に求めるもの。生徒が求めるものは、楽しさがやっぱり多いというところで、特徴的な点としまして、小学校6年生の児童よりかは技術向上を選ぶ生徒が割合として多いなというところで、ここも一つ特徴が見られるところと思います。

ページをおめくりいただきまして20ページ、上段でございます。顧問の先生から専門的な技術指導を受けられていると思いますかというものでございます。こちらについては7割程度というところで、顧問の先生から専門的な指導を受けているということでおおむね満足している生徒が多いのかなというところでございます。

下段のところですか。20ページ、下段、資格のある指導者から専門的な指導を受けたいかどうか。こちらについても「思う」「やや思う」が合計65%ということで、満足しているけれども、もっと外部の方の指導を受けたい。また、先ほどのところですね、顧問の先生でもしかしたら、少し満足がいけない方も外部の指導を受けたいとか、両方の割合が合わせって65%になっているのかなというところでございます。

続いて、21ページ、上段のグラフでございます。新しい部活動、合同部活動、地域クラブ活動を選択したいかどうかということですね。こちらについては、5割以上の生徒が肯定的な意見でございます。

続きまして、下段のグラフです。こちらの問12、新しい部活動で何に入りたいか。合同部活動や地域クラブ活動で、今学校にない部活動で入りたい部活は何かという問いでございます。こちらは21ページ目、下段の表と、続いてページをおめくりいた

だいて、22ページ目の上段、下段、この三つのスライドで、この問12の結果をまとめております。

21ページの下段が男女合計、22ページ上段が男子のみ、22ページ下段が女子のみという形で抜粋したものを掲載しております。それぞれ上位10位までの種目でございます。各校において、希望する部活動がない回答のみ抽出しております。先ほど、小学校6年生児童の回答と同様に、抽出前のデータにつきましては、先ほどお示しをしました参考資料、A3の縦長の細かい表に抽出前の、そのままのデータを掲載してございますので、そちらについてもお時間あるときにご高覧いただければと思います。

抽出した結果、スライドの資料2、21ページ下段の男女合計のところ、新しい部活動は何に入りたいか。バドミントンが1位、2位にダンス、そして水泳、バレーボール、硬式テニスというところで、バドミントンの需要が高いというところが見てとれます。

資料の22ページ、上段の男子のみの上位10種目。ここでもバドミントン、バレーボール、野球、サッカー、水泳という順番でございました。

22ページ、下段の女子のみのところでは、ダンス、バドミントン、水泳という順番になっております。

続いて、隣の23ページ、問13、上段のグラフでございます。他校の生徒との活動をどう思うか。こちらについては肯定的な意見が全体の5割、ただ一方で不安があると、自校のみでよいというところが3割を超えるというところの結果となりました。

さらに下段の表ですね、どこまでなら参加してもよいか。活動を希望するエリア、参加を希望するエリアのところでは、「自転車」「バス」「区内」ということで、小学校6年生と同じように自転車、バスという順番になっているところでございます。

ここまでが中学校生徒のアンケート結果のまとめでございました。

ページをおめくりいただきまして、25ページに進んでいただければと思います。中学校保護者からのアンケート結果につきまして、回答数は1,288、回答率26.3%でございました。

25ページ下段のグラフでございます。部活動に期待するものですね、こちらについては「仲間との交流」が一番高くなっているところでございます。また、技術向上というところが小学校保護者とも、こちらのグラフは同傾向なんですけども、比較的小学校6年生の保護者に比べると、技術の向上というところを中学校保護者が希望している割合が比較的多いというところが見てとれます。

ページをおめくりいただきまして、26ページ上段のグラフでございます。保護者から見て、顧問の先生から専門的な技術指導をお子様が受けられていると思うかどうかということで、「思う」「やや思う」が全体の約半数を占めました。「思わない」「あまり思わない」が3割弱というふうに出ております。生徒が顧問の先生から専門的な技術指導を受けられていると「思う」「やや思う」の割合が7割だったことに比べると、保護者は47%ということで保護者は少ないという結果となっております。

また、26ページ下段、教員以外の資格のある指導者からの専門的な指導を受けさせたいかというところでございます。「思う」「やや思う」が約8割。こちらも生徒が65%だったところから比べると、保護者の割合が高いということになっております。

小学校保護者の回答も87%でございましたので、保護者としては外部の指導者からの指導を受けてみたいと思われているという結果が上がってまいりました。

隣のページ、27ページ上段のグラフでございます。新しい部活動の形、選択してみたいかどうかという、こちらについても肯定的な意見が8割を占めているところで、生徒の回答が6割だったところから比べると、保護者としては新しい部活動に選択することに肯定的な意見が多いという結果がございました。

下段のところ、他校の生徒との活動をどう思うか。こちらについても肯定的な意見が84%ということになっております。

ページをおめくりいただきまして、28ページの上段、参加を希望するエリアでございます。こちらについては「自転車」「徒歩」の順番になっておりまして、保護者としてはなるべく近くでやっていただきたいというふうに考えていらっしゃるということが分かっております。

28ページ下段、問7、現在の部活動の活動費用、今、参加している部活動の活動費用、年間幾らくらいというところでございます。大体年間1万5,200円、月にならずと1,270円といったところで結果として出てまいりました。

次のページ、29ページ上段のグラフ、先ほどのグラフが今の部活動で幾らかかっているか、そして、今回の29ページ上段のグラフは新しい地域クラブ活動になったときに、年間幾らくらいまでなら費用負担してもよいかというところで、結果を平均すると年間1万7,900円、月にならずと1,490円ということで、今の部活動よりも少し金額が上がっているというところがございます。小学校保護者の方と回答のほう、一緒だったという結果となっております。

ここまでが中学校保護者の方からの回答でございました。

最後の部分でございます。中学校の教員のアンケート結果でございます。31ページをお開きいただければと思います。31ページ上段ですね、中学校教員の回答数159、回答率46.6%でございます。

ページをおめくりいただきまして、32ページ上段のグラフでございます。中学校教員の方で、今担当している部活動を持っている、受け持っているという先生は90%でございます。内訳は下段の表のとおりでございます。

続きまして、33ページ、下段の表、週7日当たりの担当している部活動の対応日数、「4日以上」が5割、続いて「2日」が2割という形で、1週間の間でかなりの日数を部活動の参加に割いているというところが結果として出てまいりました。

ページをおめくりいただきまして、34ページ、上段のグラフでございます。先生方、部活動に負担を感じていますかどうかということで、「感じている」「どちらかというと感じる」が約7割ですね。「感じていない」「どちらかというと感じていない」という方が2割という結果になりました。

下段の表です。34ページ、下段の表、負担を感じる理由。こちらについては「放課後・休日の自分の時間がなくなる」ところと、「他の仕事ができない」、ほかの業務に当たれないということで、そちらが多いという結果になっています。

次のページ、35ページ、上段のグラフでございます。今後、部活動に関わりたいと思いますかという問いでございます。「思う」「やや思う」が3割、「思わない」

「あまり思わない」が5割を超えたというところでございます。

下段のグラフでございます。35ページ、下段のグラフ。問9、「部活動の地域連携」を進めることについて、どのような印象を持っているかといったところでございます。こちらについては進めるべきというところで、肯定的な印象が多いという結果が出ております。一方で、抵抗があるというか、不安があるという方もいるというところで、なっております。

ページをおめくりいただきまして、36ページ、上段のグラフでございます。教員の代わりに部活動指導員や部活動補助員に指導してほしいと思うかどうか。こちらについて、「思う」「やや思う」が約6割、そして既に配置済を合わせると7割が指導員や補助員に指導してほしいと思っていられる。また、「思わない」「あまり思わない」方は1割というところが上がってきております。

続きまして、その36ページ、下段の表ですね。地域クラブ活動を進めるにあたって、どのような印象を持っているかというところで、地域クラブ活動を進めるにあたっての印象は肯定的な印象が多いというところでございます。一方で不安感、抵抗感もあるというところで、そういった結果が出ております。

次のページ、37ページ、上段のグラフでございます。休日だけでも地域クラブ活動として地域の団体に指導してほしいと思いませんかという問いでございます。こちらについても、休日だけでもというところで「思う」「やや思う」が5割を超えている。「思わない」「あまり思わない」も2割少しより多くという結果でございます。

最後の問いでございます。37ページ、下段、問13、兼職兼業制度、先生が兼職兼業制度を使用したいと「思わない」「あまり思わない」が4割、兼職兼業制度を利用したいと「思う」「やや思う」が合計3割というふうになってございます。

駆け足のご説明になってしまいましたが、資料2の説明は以上でございます。

○会長

ご説明、ありがとうございます。とりまとめご苦労様です。なかなか貴重なデータになっていると思いますけれども、ただいまの説明につきまして、ご質疑、ご意見があればお願いいたします。

○委員

まず、丁寧な資料をありがとうございます。全体的な印象としては地域移行、また指導員等の学校内での活用等について、あまり否定的でなく前向きな形で小学生から中学生、そして保護者、先生も一定程度、そういう感じでしたが、温度差がありますので、その辺、どういうふうに考えるかというのはいろいろあるかと思います。

クロス集計はお願いしたらできるのでしょうか。こういうふうに思っている人のうち、何人がこういうふうに思っているというような形の集計は取れるのでしょうか。

○事務局

そうですね。ご要望があればそういった形で、ソートかけてクロスすることも可能で

ございます。

○委員

ありがとうございました。

○会長

今後、クロス集計出しますか。

○委員

いや、もうちょっとよく見えます。

○会長

そうですね、ちょっとじっくりデータを見ていただいて。

ほかに皆さん、いかがでしょうか。

○委員

すみません。

○会長

はい、お願いします。

○委員

「学校教員以外の資格のある指導者からの専門的な」何ですけれども、僕はぶっちゃけ演劇なんですけれども、やっぱり資格というものが存在しないというものは、これは想定されているのか。何かその、スポーツは分からないんですけど、例えば、学校の先生や教職の人というのは何かしらのライセンスがあるんですか。

○会長

どうなのでしょう。分野にもよると思いますけれども、この辺ちょっとご存じの先生方がいらっしゃいましたらお願いします。

○事務局

事務局からです。

部活動指導員におきましても、特段のライセンスということは求められていないというふうに捉えてございますので、特段資格を設定するですとか、そういった縛りはないというふうに捉えてございます。

○委員

各スポーツにおいては、基本的に公的な指導員としての教育と試験的なものがありまして、そこで資格を取るというようなことがあります。ちょっと詳しいことは私もあ

まり存じ上げないですけど。

○委員

ありがとうございます。

○会長

どうぞ。

○委員

学校側の抵抗している内容というのは分からないんですよね。どういうところが抵抗があるみたいな。

○会長

その辺、何か具体的なご意見等がありましたでしょうか。

○事務局

そうですね、先生方の中で抵抗がある、地域クラブ活動を進めるに当たっての抵抗というところでは、詳しくこの中身について回答があった方はかなり少なく、中には学校という場所の中に、失礼しました。

そうですね。安全面とか、そういうところを危惧する方も回答の中にはあったかと記憶してございます。全ての方から理由があったわけではなくて、一部の方からはそういったアンケートの中に記入されていたということでございます。

○事務局

あと、ほかに推測される理由といたしましては、顧問の教員の先生と連携した指導体制の構築でございますとか、学校と良好なコミュニケーションが取れるかどうかというようなところを懸念されているというような面もあろうかと捉えてございます。

○委員

やっぱり中には、部活動をやりたいから教員になっているという教員もいっぱいいます。そんな教員は自分がメインでやりたいと思っています。平日は自分たちが見て、土日は地域の人たちにお願いするとなると大切な練習試合や大会を指導できないことに抵抗感はでてきます。平日の練習を指導する大人と土日の大会等を指導する大人が別となるとコミュニケーションをどうするかという難しさがあります。やっぱりやりたい教員は全部、自分がやりたいのかなと思います。

○委員

これは僕の経験で、僕も今、中学校に教えに行っているところで、前の外部指導員の人と学校がもめて、僕が参加したと。その後に僕が入ったときは、先生たちというか、その一回もめたという件があって、結構当たりがきつかった。

○委員

そういうケースはあると思います。顧問の先生も思いが強くて、地域の外部コーチの方も思いが強くて、そこで指導方針によってずれが出てきてしまうというケースはあります。

そういう煩わしさを経験した人は、二つの立場で部活動を持っていくのは難しいよと思う人はいると思います。かといって、その逆も部活の専門性がない教員で部活を見ている人が、日頃は面倒を見れるけれども、練習試合とか大会のときに専門性のある人が見てくれるとありがたいというパターンも正直言ってあると思います、逆に。

○会長

現場のご意見ありがとうございます。

そうですね、やっぱりおっしゃるとおり全体的には、そういう地域の活動みたいなどころに、全体的には何となく肯定的な意見が多いけれども、やっぱり立場によっては、ちょっとまだ懸念を示される方も一部いらっしゃるよなというのが全体的な傾向とちょっと思いましたけれども、ほかにいかがでしょうか。

○委員

はい。

○会長

お願いします。

○委員

今、言われたように各小学生、中学生の生徒、あと保護者についても先生以外の資格のある指導者からというところで皆さんは答えていると思うので、今後進めるに当たっては、その専門性のある外部の指導員とか、クラブ指導員、部活指導員とか、指導員補助の方を今後選定していくような動きをしていったらいいのかなと思います。

○会長

そうですね、やっぱりその場合は学校の教員の方々と良好なコミュニケーションが取れるということが前提とした上で、そういう考え方があるので、いくのがよいのかなと思いますけれども。

ほかにいかがでしょうか。

(なし)

○会長

ご意見いただきまして、ありがとうございます。ほかの質問等ないようでしたら、次に進めさせていただきたいと思います。

それでは、次第の3、課題整理及び次第の4、計画策定の基本的方向です。こちら事務局のほうからご説明お願いいたします。

○事務局

次第の3番と4番を併せて説明させていただきます。

まず、資料3と右肩に書かれております、アンケート結果から見る、部活動地域連携に向けた課題やポイントという資料をご覧くださいと思います。

先ほど説明をしていただきましたアンケート結果から課題やポイントを押さえてご説明させていただこうかと思います。

まず1ページ目、下段です。児童・生徒の課題とポイントについてです。児童・生徒、全般的には、やりたかった部活がなかったという意見も複数ございました。その意見からは、今後は地域クラブ活動など、新たな部活動という選択肢を導入することが必要になってくるということがポイントとしております。

続いて、専門的な指導への要望も6割程度ございました。こちら、指導者の確保が課題だということかと思えます。

続いて、下段のところ、合同部活動、地域クラブ活動についてです。こちら、約3割の方が他校との生徒との活動に不安がある、もしくは活動をしたくないというような回答をしていました。残り7割については、肯定的な意見もございますので、まずは急な改革というのは危険なところなので、周知の仕方等には工夫が必要なのかなということがポイントとしてございます。

続いて、約4割の方が徒歩や自転車で通える範囲の活動場所に限定をしていました。合同部活動や地域クラブ活動に参加したいというような意向については半数以上ございましたので、今後、複数校の生徒を集めての部活動ということの開催というのは可能なのかなと考えているところなのですが、移動距離等の考慮が非常に大きな課題になるかなということなのです。

そうしましたらページをおめくりいただきまして、2ページ目です。

上段、保護者の課題とポイントについてです。保護者の方からの専門的な指導への要望がかなりございました。こちら子どもの希望が6割程度だったのに対して、保護者が約8割でした。やはり保護者の方は、専門的な指導を子どもに望んでいる傾向があるのかなということなのです。

続いて、合同部活動、地域クラブ活動についてです。こちら北区以外の学校の生徒との活動に不安がある、または活動はしてほしくないというような回答でございました。子どもが約3割程度、不安があるというような回答をしていたところから比べると、どちらかという保護者の方は寛容的なご意見ですけれども、この1割の方にも丁寧な説明が必要かなということがポイントとなっております。

続いて、約6割の方が徒歩や自転車で通える範囲の活動場所に限定されているというところで、子ども以上に自校以外での活動には肯定的ですけれども、特に自転車で通える範囲の回答が多かったということもありまして、移動距離の設定及び駐輪スペースの確保というのが課題になってくるのかなということなのです。

続いて最後、地域クラブ活動への費用負担の増についてです。こちら、8割以上の方

が費用負担については許容していただいておりますが、増額幅については大きくなかったところもありますので、他区と比較しつつ適正な金額設定が必要となってくるかと思えます。

続きまして、下段、教員の方の課題とポイントになります。教員もまた、約7割の教員の方が部活動に負担を感じているという回答をしておりました。また、半数以上の教員の方が部活動に携わりたくないという回答がございました。ここから、多くの教員の方が部活動へ負担を感じているというところ、その理由としては「放課後・休日の自分の時間がなくなることへの負担感」や、「他の仕事に時間が割けないことへの負担感」というのが、やはり大きくのしかかっているよなところなんです。ただ一方では、部活動に携わりたいという教員の方も3割程度いるということで、こちらのところについても、ちゃんと着目していかなければいけないところと思っております。

続いて、合同部活動、地域クラブ活動についてです。こちらのほうも肯定的な意見がかなりあったところですが、抵抗があるという形で先ほどのところ、重複するところにはなるんですけども、これについても着目していかなければいけないかなと思っております。多数の教員の肯定的な意見のところに関しては、外部人材の導入というのは必要になってくるということだと思っております。ただ、抵抗がある方もいらっしゃるので急な改革というのは、やはりこちらも危険であることと、実際部活動に携わりたい教員の方というところへの丁寧な説明や兼職兼業制度などのケアというのが必要になってくるかと思っております。

続いて、3ページ目になります。

北区としての課題になります。部活動指導員、部活動指導補助員、こちらは既にもう導入されているところですが、先ほど生徒・児童や保護者の方からも専門的な指導をかなり要望があったというところで、そういう指導ができる方の確保というところと、その指導のできる方に区がどういう意向で指導員をやっていたらいいかというところも指導者への説明というところが課題になっているかと思っております。

そして、合同部活動、地域クラブ活動です。こちら持続可能な活動に向けて、歳入等も含めての制度設計について今後描いていくところが課題になってくるかと思っております。また、学校や生徒、保護者への説明、また地域クラブ活動の受皿になれる団体の確保、調整というのが課題になってくるかと思っております。

最後、活動場所ですね。特にスポーツ関係のところについてはグラウンドや体育館等が必要になってくると思えますので、こちらの課題をクリアした上で部活動の地域連携、地域移行を進めていく必要があると考えております。

資料3については以上になります。

続きまして、資料4ですね。北区部活動地域連携の基本的方向と書いている資料をご覧いただければと思います。

ただいまご説明しました課題やポイントを踏まえて、北区はどのように地域連携を進めていくのかというのをお示しさせていただきます。

まず1ページ、下段になります。北区としては大きな目的として二つ掲げて、今後地域連携を進めていこうと思っております。

一つ目は、生徒のニーズに合った活動機会の確保。二つ目が、教員の部活動への負担

の軽減、こちらが大きく二つの柱として部活動地域連携を進めてまいりたいと思っております。

ページをおめくりいただきまして、2ページ目になります。

具体的に北区の部活動の改革をどのように進めていくかについては、上段のほうに記載させていただいております。教員の負担軽減というところでは、既存の部活動を充実していくというところで、今現在実施している部活動指導員・補助員、また、合同部活動も学校によっては実施しているところもございますが、こちらのほうを充実させていくことで教員の方の負担の軽減を図っていきたいと考えております。

また、今現在生徒のニーズがあっても部活動がないというような、ニーズをすくい切れていない部分については、地域クラブ活動を創設することで、そういうニーズをすくってあげればと考えております。

続いて、下段のところになります。地域クラブ活動、北区でどのように実施するかというところのモデルをお示しさせていただいております。活動頻度としては土日を中心に週1日程度活動するところから始めようと考えております。こちらは北区と、受皿になる団体さんが契約をさせていただいて、その団体の方が直接生徒の方に教えていただく、また団体の方は学校との連携を取っていただくというような形を取ってあげればと思っております。

続いて、ページをおめくりいただきまして、3ページ目になります。

今後の導入スケジュールです。まず、先月行いましたアンケート結果を基に、今後部活動、地域クラブ活動で導入する部活動については種目の候補を検討しているところです。また、年末にかけては各関係団体との調整や運営方法を構築していこうと思っております。また、年末から来年の春頃までにかけて、学校や生徒、保護者、地域への説明というのを丁寧にしていけたらと思っております。

また、年度が明けまして令和7年度になりましたら、団体の選定や研修を経た上で、10月から地域クラブ活動を導入していければというところで、今現在の意向ですが、このようなスケジュールで進めていければと思っております。

続いて、下段になります。既存の部活動の充実のところについて、部活動指導員・補助員の拡充についてです。先ほどご説明させていただいた調査を基に、今後部活動指導員の配置を段階的に進めていければと考えております。

おめくりいただきまして、4ページになります。

上段のところ、部活動指導員の委託検討と書かせていただいております。これまでの説明のとおり、部活動指導員を拡充していくことが必要になってくるところというふうに考えてはいるのですが、実際に指導ができる人材の確保がなかなか難しい現状です。現在も、拡充はしておりますが、場合によっては一部派遣等を活用することも視野に入れていく必要があるのかというところで、ただいま検討しております。

続いて、下段になります。合同部活動の取り扱いについてです。今まで、区として合同部活動をしっかりと把握をできていなかったところがございますが、今回のアンケートでは、合同部活動のニーズもありましたので、今後北区として合同部活動をどうしていくかというところも、方向性をただいま検討しております。

続きまして5ページ目、最後のスライドになります。

年度ごとのスケジュールです。現在考えている当初の目標になっております。上2段、部活動指導員、補助員については今後も拡充していくというところは、先ほどからご説明しているとおりですが、地域クラブ活動については来年以降、スポーツ1クラブ、文化1クラブずつ、合計2クラブずつ毎年クラブ活動を増やしていき、5年で10クラブ整備することを目指して進めていく予定になっております。

私からは以上になります。

○会長

ありがとうございました。

次第3及び4について、ご質疑はございますでしょうか。

○委員

すみません。

○会長

はい、お願いします。

○委員

合同部活動とか地域クラブ活動に参加した場合は、スポーツでいうと中体連の大会だったりとか、あとは吹奏楽だとコンクールとかに参加は可能になるのでしょうか。

○事務局

今、そういった単独の学校ではなくて、ほかの学校ですとか、区で大会出るという流れ自体はできつつあるという状況でございます。中体連におきましても、そういった方向で少しずつ変えているというような状況でございますけれども、全てが今、そういうふうになっているわけではございませんし、例えば、水泳一つにとっても種目によって、そういった大会のとき可能だ、あるいは可能ではないというようなところもあると思っておりますので、少しそういった流れになるには時間がかかるというふうな状況というふうに捉えてございます。

○会長

お願いします。

○副会長

いろいろと資料をまとめていただいて、ありがとうございました。

ちょっと個人的に一つ違和感というか、お願いしたいなというところがあって、今、今後の課題の中で出てきたのが専門的な指導者のニーズというところが幾つか出てきていて、確かにこの部活動の外部委託って、じゃあ先生以外誰やるのって、じゃあ専門的な外部指導員という言葉がすごく出てくるんですよね。ただ一方で、このアンケートを見ていただいて、確かに先生以外の専門的な指導員に指導を受けたいですかと

聞かれれば、それは大抵の人は受けたいですと答えるんだと思います。当然、そうだと思います。

一方で重要なのが、これどのカテゴリーを見ても部活動に何を求めますかというところの、いわゆる上から三つですよ。技術向上、楽しさ、仲間との交流。これ、どのカテゴリー見ても総数で割ると技術向上ってたかが3割しかないんですよ。ほとんど6割以上は、みんな楽しさとか仲間との交流というところを、実際やる本人たちが考えているということを経験すると、実際今後学校の先生以外の外部の人をお願いすることは当然必要なんですが、そこが選ぶ際に急に競技力向上のところばかりに偏ることによって、ちょっとおかしなことが出てくるのかなと。

意外と僕らの世界では、競技スポーツこそスポーツ嫌いを増やしているという現状もあったりして。例えば、競技力向上、JリーグとかBリーグのすごい人が来て、じゃあ指導しなさい。多分、すごく指導やってくるんだと思うんですけど、そこについていけない子たちのほうがほとんどで、逆にそこで中学生で試合に出られなければ、多分高校で続けないということを経験したときに、だからこそ学校の先生という教育の専門家がやっていた価値が今までは当然あったわけで。当然、その中には競技思考の先生もいる一方で、やっぱり先生としていろんな子どもたちに目をかけるという前提の中からやることに、多分部活動の意義って本来あるわけで。そう考えたときに、外部に指導者をお願いするといったときに、何となくの専門家という言葉に惑わされず、本来子どもたちがアンケートの中で何がやりたいのか。だって、そもそも部活動って競技力向上でも何でもなくて、学生がやりたいからやるという前提の中で、いかに子どもたちがやりたい、続けたいと思わせる環境にできる専門的な指導者を選ぶかというのが多分すごく重要なのかなというふうに思ったところが一つです。

あと、もう一つなんですけど、先ほどの議論の中にもあったんですが、いわゆるこれを進めたがらない先生たちというのは当然、一定数いると思うんですけど、その人たちはもう全く、この議論に加わってもらわないという、0か100かではなくて、逆にその人たちにはここにむしろ参加してもらって、言い方悪いんですけど、どうぞやりたければやってください、その代わりに、ごめんなさい、あまりお金は出せませんけどねという、ご本人たちの了承の下でやっていただく前提で、それがやっていただけない部活や活動に対して指導員だったりとか、もしくは合同部活みたいなものをつくるという、0か100かで、部活でやるか外部委託かという二者択一ではなく、ハイブリッド型の仕組みというのを多分、北区モデルとして考えたほうがいいのか。そうすれば、別にやりたい先生から取り上げる必要はなくて、逆にやりたい先生はやってください、その代わりにこちらでやりやすいような環境を整えます。でも、当然やっぱり7割、8割はやりたくないという先生がいるので、そこに何か当て込むような仕組みというのを、ぜひ今後考えていただければいいかなというふうに思います。

以上です。

○会長

貴重な論点をありがとうございます。

どうぞ、お願いします。

○委員

今、副会長さんがおっしゃった1点目の、外部に委託することにより競技性を高め過ぎることによってのというのは、すごい危惧はあるんです。ただ、私が思う、さっき言った技術向上、楽しい仲間との交流。楽しいってじゃあ何となったときに、好きな者同士が集まって、ただわいわいやっていけば楽しいのとか、友達とコミュニケーション取れるからその場が楽しいのというのは、また違うのかなと思うんです。その中に一定の専門性が高まっていく過程の中で、友達と協力し合ったり励まし合ったり、そして時にはある程度の試合の中で結果を残せたり、そういう経験の中で楽しさが出てくるのかなと思う部分がある。

ですから、この地域クラブ活動概要として土日を中心に週1回程度、例えば、大人が、私なんかは野球やっていましたが、そんな人間だったら週1回、日曜日野球やれば満足なんです。でも、そうじゃない、この中学生期の子に週1回、例えば、サッカーならサッカー、野球なら野球をやって、満足できるのかなというのは正直言って思いません。何をもって楽しいかというところは。

もう一つが、やはり私も中学校の教員、管理職をやっておりまして、教員の自己申告面接時に部活動の指導に対しての負担感を感じます。特に介護がある、あと子育て中、あとは専門性のない人、本当にもう土日の大会のときなんか家族で相談して何とか出てくるような状況だったりとか。あと、新採の先生にお願いしたケースでは、国語の先生なんですけど、よく見ると机の上にバレーボールの指導の本が置いてあって、活動中に体育館に行くと、跳び箱その上から自分が球出ししていたりとかすると、何か涙が出てきます。でも、結果的にはバレーボールが大好きな生徒からすると満足できない。保護者にしても、自分がバレーボールの経験者だとして、あんな指導じゃあ駄目だなんて言われてしまう。非常に心苦しいところがある。ですから、そういった人たちに対しては、やっぱり外部指導という専門的な指導者が必要だと思います。

でも、それでも外部指導ということになると土曜日、日曜日は外部指導の方をお願いできるわけじゃないので、必ず顧問のどちらかがつかなくてはいけなくて。じゃあ、そういうときにその教員が報われるのは何かとなったときに、私はお手当だったりするのかと思います。また、やりたいという先生は本当に貴重だと思うんですけども、やっぱりその人たちだっているいろいろ家庭があったりとか、自分のことを犠牲にしています。やりたいからじゃあどうぞじゃなくて、やりたい教員たちの気持ちを尊重した上で何か還元できるもの（お手当）してあげないと、納得できないんじゃないのかというのが私、現場を見ていての感想です。ごめんなさい。

ですので、例えば、部活動指導員の方は自分一人で責任を持って練習なり大会に引率できます。でも、部活動補助員さんはあくまでも、顧問がいなければできない。でも状況によっては学校長が認める、人物的に良好な人間であるならば、その人間が引率できたりとかすると、またちょっと負担が軽減されるのかなというのが一つあります。

以上です。

○会長

それは制度上、可能なんですか。補助の方が責任をもってやるというのは。

○委員

今はできないですね。

○委員

すみません、ちなみに地域クラブと合同部活動、大きな違いというのは、どういうところになってくるんですか。地域クラブ活動と合同部活動の大きな違いといいますか。

○事務局

合同部活動は、あくまでも学校が主体の活動というところ。それから、地域のクラブ活動、これは地域の主体の活動でございますので、前回いろいろな議論がありますけど、責任の所在というところも、これは地域に負っていただかざるを得ないというところが現実でございます。その部分を区としてどうするかというと、委託の中に保険料等を入れて、その主体、団体に保険の手続きをしていただいて、何かあったときはその保険で賄っていただく。要は、地域のクラブ活動については区が責任を取るのではなくて、その地域の人が取るといような仕組みになっているというところでございます。

○委員

合同部活動であれば、種目には違うかもしれないんですけど大会には出れる可能性はある。

○副会長

合同部活動って、あくまで部活なので、いわゆる中体連、高体連の、あの大会に今のところは出られる。例えば、クラブになっちゃうと、サッカーが一番分かりやすいんですけど、今サッカーって中体連、高体連とクラブってあるんですけど、クラブは中体連、高体連の大会は基本出られないです。だから、サッカー協会なんかはクラブの大会をとるので、サッカーの場合は二つあるんですけど、現状このサッカー以外でクラブで中体連、高体連と同等規模の大会ができていない競技団体があるかということ、これがなかなかなくて。そうすると、クラブに行くとサッカー以外はすごくスケールダウンしてしまうということが正直言っていると、そんなイメージです。

○委員

中学校のほうは、今、中体連のほうではこのクラブ活動の地域移行とかってあるので、クラブチームもそれぞれの競技の中で参加できるようになってはきています。

○委員

すみません。

○会長

お願いします。

○委員

資料の4なんですけれども、北区の部活動地域連携の基本的方向の一番最後の5ページ目なんですけれども、地域クラブ活動で文化のことなんですけれども、目標値としてスポーツと文化と1クラブずつというふうにお示しがあるんですけれども、生徒さんたちのアンケート結果なんかを見ても、文化の活動というのが母体となる団体というよりも指導者というんでしょうか、個人の先生方に関わってくるものが多そうだなというふうに思えて。そうなってくると、資料の4の2ページ目の、土日を中心に地域クラブの活動といったときに、文科系のものというのが、団体組まれている文化活動もあるかもしれないんですけれども、なかなか団体でいうところが目標値で毎年一つずつというのは、なかなか母体があるのかなというふうにちょっと思いました。団体、または個人みたいな形に文化的な活動はなってしまうざるを得ないのかなというふうに感じましたので、質問いたします。

○会長

ありがとうございます。

○事務局

いろいろな主体の参画意向につきましては、これからできる限り意向の調査というのをかけていきたいなというふうに思っています。団体への説明も含めまして、意向を把握してまいりたいというふうに思っております。

ここに掲げた5ページのスケジュール（当初の目標）というところにつきまして、あくまで当初の目標というところでございますので、やはりやりながら増減ということもあり得るだろうというふうに捉えていますし、土日を中心にとというような資料もございましたけども、これ必ずしも土日にこだわるということではございませんで、平日に文化のそういった活動をやっていただくということも十分あり得るだろうというふうに捉えてございます。

○委員

じゃあ、すみません。運動、スポーツの場合では、学校である意味、平日は3日、土日は1日みたいなのを考えていらっしゃるんですか。

○事務局

いろんな先生方のご意見を聞くと、やはり土日はしたくないというようなご意見がたくさんあるというふうに捉えています。それから、国、あるいは都の方向性、方針といたしましても、まず土日から取り組みというような方向性も出ていますので、将来的に平日を含めて、日数を増やしていくという流れにはなろうかと思っておりますけども、まずは土日のいずれかというところを中心に組み立てまいりたいというふうに考え

るところでございます。

○委員

この地域クラブ活動においても土日からということなんですか。

○事務局

そのとおりです。先生方が土日に活動する部分を地域で取り込むというような考え方を基本的には持っているので、そういった流れの中で先生方は平日、それから地域は土日というような流れになるのかなというふうに捉えてございます。

○委員

例えば、バスケットボール部が平日は学校でやっっているが、土曜日、日曜日どちらかは地域クラブ活動となってやるということ。

○事務局

それもありますし、全然やっっていない人が土日にやるというパターンもあるでしょうし、平日違う仕事をやっっている方が土日はバスケ部をやるというパターンもあるでしょうし、いろいろなやり方が、いろんな入り方があるかなというふうに思いますけれども、国のほうの考え方としても、これ将来的には、土日だけじゃなくて平日も含めて、先生方から地域のほうに部活動を移行していくというような拡充をしていくというような方向になっていますので、そういった将来的なことを言えば、そういった考え方を持っているというふうに我々は捉えてございます。

○委員

私が思っていたイメージは、学校にはない部活、例えば、ダンスだったりとか、そういった部を区としてつくって、それを好きな人が集まってやるというイメージだったんですけど、そうではない感じですかね。

○事務局

パターンが考えられるかなというふうに思いますので、ない部活をやるということも当然あり得るだろうというふうに思います。

○会長

だから、いろんなニーズを汲みとって何となく、地域と部活とのすみ分けしつつも、まずは土日は地域クラブを中心にやっって、その他は学校の部活動を中心にやっって、また何となくうまくすみ分けができればいいなというような流れになるということですよ。

○副会長

こうしろというのがないはず。

○会長

多様なニーズを満たせれば、結果的にいいかなとは思いますがけれども。

○委員

今のお話なんですけども、例えば、A中学校のバスケットボールのチームが、平日は学校で指導を受けると。土日いずれかに関しては、そのチームの機能が地域クラブに移行するという、こういう理解でよろしいのでしょうか。その受皿で指導を受けて活動されると、そういうことなんでしょうか。

○副会長

多分そういうこともあり得るし、もっと言っちゃうと、先ほど質問にあった、その先の中体連、高体連も出れるのか、クラブに出るのかというのも、正直まだはっきりしていないので、その辺は多分今の段階でどうということは全く言えず、多分事例で出ているのが、どうにかして学校の先生の働き過ぎをなくすために、月から金まで、そして土日、じゃあ土日をまず外部にしましょうと多分、考え方が前提であって、それ以外、おっしゃったようにないものをどうするのかというところまでは、多分ないんだと本来つくってやればいいんですけど、そこまでの議論がまだできていないと思いますので、こうしてくださいというのは一応案はあったとして、ただ現状の現場によっては、多分いろいろ変わって。今、言ったように部活で月水金やって、土日地域クラブでやるということが出てくるんですけど、でも実際これじゃあ大会どっちに出るのというのは、正直また。

○委員

それは、また別の団体になるかということですよ。

○副会長

そうですね。そういうことです。

○委員

Aチームでやっているバスケットボール部が、土日になると別のチームになってしまうのか。混合の別のチームになってしまうんだしたら、これは入らない。

○副会長

そうすると、その先の試合がどこに登録されるのかが、正直まだ文科省も含めて明確ではなくて、逆にクラブのほうは全然来てくださいなんですけど、多分中体連、高体連の枠組みからすると、外から引っ張ってくるとか、合同になるということに対して、まだまだこれから精査が必要なんじゃないのかなと思いますけど。

○事務局

今、先生のほうからもお話ありましたとおり、まだ国のほうで方向性が完全に固まっ

ていないんですね。ぱっとイメージしやすいのは、今、月曜日から金曜日まであるA中学校の、例えば、バスケット部を、平日は学校で運営しながら、土日だけ地域で運営してもらおうようなものとは違うと思っています。今、お話があったとおり、まず当面は子どもたちのニーズの高そうなもの、例えば、今、委員がおっしゃったダンスなんかをやっている学校がないので、そういうものを受皿として請け負っていただけたところがあるのであれば、そういったものは選択肢の一つになるだろうと。これは完全に新しいものを生み出す場。

もう1個は、学校の部活は学校の部活でやっていただきながら、例えば、サッカーのクラブチームに入っているようなイメージで、2個掛け持ちして、外に出て行って、その日は、いわゆる中学校の部活動とは別に、例えば、外の専門的なところで学ぶというパターンもあると思うんです。北区として今後、それが地域ですとか団体さん、あるいは企業の適切な受皿があるかどうかも見定めながら、どういうやり方で入れていくのか。1回、そのやり方で導入したら、未来永劫それですと行くというものではないので、状況に応じて変えていくという形になると思います。なので、今ある部活動を単純に学校からはがして、地域だけでやってくださいという話とは、ちょっと違うかなと思っています。その辺りについては今後、検討していく必要があるだろうと考えています。

あともう一方、区側としては、保護者の方に今アンケートを取っている中で、当然大事なお子さんを預かりながら仕事を進めていく必要があるので、先ほど責任の話がありましたけれども、受け持っていていただく際に、やはり一定程度、どうしても団体さんに責任を負っていただくものも出てくるだろうと。なので、そういったところの対応も可能な相手方を見定めていく必要が今後出てくるかなと思っています。なので、A中学校にあるバスケットのAチームを、そのまま単純に土日だけ別の先生にお願いして部活動を運営してもらい、平日はまた学校の部活に戻ってもらうというのとは、ちょっと違うかなというところだけご理解いただければと思います。

○会長

ありがとうございます。

なので、いろんなパターンが考えられると思うんですけれども、基本的な方向性はやっぱり副会長のおっしゃったとおり、まさに現場の先生方の負担をまず減らす。かつ、部分的には子どもたちの選択肢が平日と土日、また選択肢が増えるということが基本的にはポジティブかなと思うところですけどね。

お願いします。

○委員

資料4の4ページです。案として人材バンクの活用というのがあるのですが、現状の雇用契約も私は残しておいていただきたいというふうに思っていて、まず地域で一定程度、指導員を確保する方向をまず基本に置きながら、そして足りないところを人材バンクで補うような形がいいのではないかというのが、個人的な意見です。

例えば、体育協会に所属している33の連盟がありますので、そちらのほうに、一定

程度ニーズがあれば、話をいただければというふうには考えております。

○会長

ありがとうございます。

私もちょっと質問しようと思っていたんですけど、この人材バンクってどういうイメージなんですか。

○事務局

なかなか週の中で特定の曜日に2時間程度だけ雇用すると言って来てくださる指導者が少ない。しかし、東京都とかも人材バンクとして指導者を募っていることもあり、そういう専門的な方がシフト制で入ってくださっているようなところから人を紹介してもらおうということも、視野に入れていくというふうには考えております。

○会長

一般的な何か企業さんみたいな、そういうバンクがあるということですか。それとも、何か。

○事務局

ちょっとよろしいですか。

人材バンクの、この例が出てきた理由なんですけれども、今、部活動指導員というのを本課で配置させていただいているんですが、今年度16名配置できるんですけれども、実際にはやっぱり集まらないですね。人材が不足してしまうと。そういう問題を、やはり解決していくためには、人材確保をメインにした誰かがやるのが、やっぱり効率的にはいい。今現在やっぱり、中学校のほうには人材が不足しているということで迷惑をかけているんですね。それでも部活動を維持してほしいということをお願いしているので、場合によっては校長先生が部活動を持っているという学校も出てきてしまっているんですね。

そう考えると、子どもの部活動を維持して、かつ教員の負担軽減を図るためには効率よく配置していく必要が出てくるということで、この案が出ていて、この間、渋谷区のほうにちょっと行きましたら、まさしくそういうようなことをしているということが分かっているんですけど、なかなかやはり運用面でかなりの経費等もかかるということもありますので、すぐには実現難しいかなというところで今、委員からもお話いただいたように、しばらくは併用しながらというか、そういう話になるのではないかなと個人的には考えています。

以上でございます。

○会長

ありがとうございます。

○副会長

多分、専門的な指導者を派遣してくださいという企業が、まあまあ幾らかあるんですね、世の中には。ただお願いしたいのが、そうなるとさっき僕が言った、単純に競技性の専門家しか来なくて、結構トラブルが起こる傾向が多いです。なので、もしこれ人材バンクをつくるのであれば、できれば北区側の人材バンクをつくっていただいて、北区の中の人材で何かそういうバンクをつくるほうがいいのかと個人的には思います。現状もなかなかそれで集まらないというところでご苦労されているんだと思うんですが、何となく丸っと投げてというよりは、できればこの北区の状況をご理解をいただいた中でやっていただく、もしくはいわゆる学校の体育の先生のOBの方とかだけではなくて、例えば、既存にあるいろんな体協に関連している、総合型スポーツクラブに関連しているようなところの者だったり、例えば、大学の体育学部だったり、そういうものも使った中で、多分北区版の人材バンクというのをぜひつくっていただいたほうがいいのかと個人的には思っていますので、ぜひご検討いただければと思います。

○委員

すみません、今のお話にちょっと関連するんですけど、やはり北区版の、そういう独自のバンクというんでしょうかね、それはすごく大いに賛成で、そのためには先ほどの資格ということが出てきましたけども、その資格に関しても北区独自のものを、それぞれ用意して、それを取得させると。そうしたことによって、いわゆる一定の技術レベルであったりとか教育指導のレベルが一定化させることも、何かできるのではないかなということで、ちょっとご検討いただきたいかなと思っています。

○事務局

ご意見、ありがとうございます。実際、その人材確保ってすごく課題になっていて、教育の分野だけじゃなくて、今たまたまちょうど区長部局とスポーツ推進課のほうで、スポーツの推進の計画の策定もさせていただいています。そこでも、いわゆる指導者の育成の観点であるとか、そういった話って議論になっていくと思うんですけども、その地域の中で、例えば、そういった人材を集めてバンク的につくる、団体としてなのか企業としてなのか分かりませんが、そういった動きが今後出てくるのであれば、当然教育委員会としてもそこに対していろいろなお願いをしていくことによって、部活動の選択肢が広がっていくかなというふうには思っています。

そこに到達するためには当然、役所だけ動いてもなかなかうまくいかないというところがあります。役所が主導していると、言い方悪いんですけど、補助金が切れたら、いきなりその団体立ち行かなくなりますというのが、やっぱり一番よくないパターンだと思いますので、やっぱりそういった意味では今後その地域の醸成とか、力をつけていただくという部分も見据えて進めていく必要があるのかなというふうに思います。

○会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。お願いします。

○委員

今、人材確保についても体協としてもかなり興味を持っていて、何かいろんな形で協力できるかもしれないので、検討させていただきたいと思います。

それから、先ほど資料4の5ページですが、今現在の状況を鑑みて、慎重な形での導入ペースかなと思っているのですが、仮に地域で一定程度の受皿が間違いなく見込まれる場合は、この数字は変えていくような考え方はできないですか。

○事務局

まず私どもとして、子ども相手にこういった活動、仕組みをつくっていくということですので、失敗はできないというふうに捉えてございます。そうした中で、まず令和7年度、繰り返しになりますけども10月からスポーツ1、文化1、これをやることを目指していきたいというふうに思っております。そうした取組をする中で、状況を見ながら増やしていくという事はあり得ると思いますし、逆のパターンもあるかもしれませんが。繰り返しになっちゃうんですけど、これあくまで当初の目標というところでございますので柔軟な対応、状況を見ながら考えていきたいと考えてございます。

○会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。お願いします。

○委員

すごいスポーツのほうだと結構そういう総体連、分からないですけど団体があっついんですけど、文化部になってくると意外とそういうものがちょっとあまり、そもそもこれだけ数があるんですけどばらばらなので、そこを何か今、どうしてもスポーツのほうにちょっとメインな話になりそうなんですけど、やっぱり文化部のほうはなかなかこれをまとまるというか、それがやっぱりちょっと難しそうかなと。また、さっき言った資格の話もそうなんですけど、やっぱりちょっと音楽はブラスバンドとか分からないんですけども、当然お芝居もないですし、ほかにも書道とかいろいろあるんですけども、その辺の選定という部分、どういう基準になってくるのかということを含めて、何かちょっと文化のほうもその辺はいろいろ、どういう人を確保していくのかということも、少し考えてもらえたらなと思っています。

○会長

ご意見、ありがとうございます。そのとおりだと思います。

どうでしょう、事務局。

○事務局

このスケジュールにお示しのとおり、スポーツ1、文化1とバランスよくというところで我々考えていますので、文化も力強く、ここに1を計上してございます。同じように進めていきたいなというふうに思っております。その中で、スポーツだけではなくて文化のほうも指導体制、こういったところも良質なものを提供できるようにというところで、いろいろご相談しながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

○会長

ありがとうございます。

○委員

いいですか。

○会長

お願いします。

○委員

すみません、ちなみに今、部活動のほうの指導員という制度あるじゃないですか。これって何か資格を取ったり講習会したりしている人が登録されるんですか、そんなイメージなんですか。

○事務局

部活動指導員の資格なんですけれども、特にないんですね、特段。副会長、最初におっしゃられたとおり特段なくて。研修は必ずするような形を取っています。特に子どもに関わることで、やはり言動が、昔ながらの指導の態度とか、そういうことのないようにしたいと考えていますので、研修をした上で実際配置になっていく手順を取るようにしています。

○会長

研修というのは具体的にどれぐらいのボリュームですか。

○事務局

1時間半ですね。年に1回になるんですけど必ずやるような形。

○会長

それは必ず受けてねという。

○事務局

はい。

○委員

ちなみにじゃあ、スポーツのイメージはすごく分かるんですけど、文化部の外部指導員をやる場合もそれを受けるということですか。

○事務局

結局、そういうことになります。今、文化部の指導員がいないので、配置がないので、もし文化部の部活動指導員が配置されることになれば、その研修は必須となります。

○委員

そうすると最低限、スポーツでも文化でも、北区が一応こうしてくださいというものの研修を受けた人がやるという前提になるということですよ。

○事務局

そうでございます。

○委員

だから多分、そこから先の専門性のレベルをどこまで求めるかというのはちょっと議論はあるんですけど、少なくとも全くやったことないとか、素人がということではない限り、北区が定める研修会を受けた人という前提という、一応下のところに合わせておくというのが、まず何か重要なのかなという。そうすると、サッカーとか野球だったら指導資格があるので分かりやすいんですけど、確かに文化ってなると、本当に趣味の中でできちゃうものもあれば、そうするとどこまで資格を取るの。じゃあ少なくとも北区の定める、この研修を必ず受けてくださいというような、何か制度をしっかりともう一度構築できれば一番いいのかなという気はしますね。

○会長

はい、お願いします。

○委員

私、板橋区も見ているんですけども、板橋区の体育指導員は元教職員、もしくは学校長が認めた者というふうにしっかりうたっているんですけども、北区にはそういう元教職員というのはいないんですか。

○事務局

うたっていないです。うたっていないで、ただ学校は独特の文化がやっぱりあると思うんで、教職員の方のほうが適応しやすいですね。校長先生の指示とかもよく理解するので、だからそういう北区においても元教員の方がやっぱりいます。校長先生もやっぱり信頼している方とか、よく分かっている。

○委員

うたっていない部分をそういう方が優先的に入っているという形か。

○事務局

現実問題足りていない状況なので優先ではないんですが、そういう方はいます。

○委員

これも一般的に公募されたらどうなのかなという気はいたしますけどね。ここの学校でとか、このエリアでとか。板橋もそうなんですけども、何となく知り合いの知り合いで探そう探そうというので、なかなか見つからない。

○事務局

ちょっと付け加えなんですけど、北区の部活動指導員の選び方なんですけども、第一は公募です。公募をして、いないので学校のほうで探していただく、我々のほうで探すという形を取っているのが今、現状です。

○委員

ああ、そうですか。

○会長

公募というのは、どういう形で公募。

○事務局

ホームページ。

○会長

ホームページで周知をしていると。

○委員

ホームページね、あまり見ない。北区ニュースではなくてホームページ。

○事務局

ホームページです。

○委員

ちなみに指導員になると、どういう権限がいただけるという。

○事務局

一番分かりやすいのは、副会長もおっしゃられていたんですけども、委員も。顧問の代わりに引率ができる。引率する責任、それが生じます。

○委員

教員がいなくても、その人が責任を持ってできる。練習試合も大会もできるし、部活動の日頃の練習もできるということが、外部指導員の場合はできない。部活補助員というのはやっぱり顧問の先生がいて、その補助をするという立場になっている。

○委員

僕もそうなので、何が違ったのか。

○委員

ですから、その部活動指導員、すごく責任がある立場の方なので、どうしても教員の経験があって部活やっていた人にお願ひしますというパターンが多いですし、部活動補助員の場合は、やはり例えば、私なんかはバスケずっとやっていましたけど、教え子でこれから教員になる、体育の先生になる、バスケもやっていきたいという人に、じゃあ一緒にやってくれよ、手伝ってくれよというパターンが多かったりする。そういう知り合いだったほうが、さっき言った指導者同士でもめたりすることがないので、そういうパターンがバスケの世界では多いですね。

○委員

もう一つですけど、渋谷区のほうも私見ているんですが、広尾中学の外部指導員が國學院の大学生、ローテーション的に、この人が卒業したら、また次の人ということで顧問の下について外部指導員がついていると。副校長がそれを認めて、その方が大会の、大学生を校長が認めて、大学生がちゃんと大会にも引率するとか、そういう形も取っているんで、北区もいろいろ東洋だとかいろいろあるので、そういうところを取り込んで、先生方とかその外部指導員補助という形も取ると、ローテーション的に潤沢に、文科系にしても体育系にしても、活動してくれるのかなという感じはいたしますけども。

○事務局

北区の中に大学が幾つかありまして、包括協定も締結しています。今回、この部活動の検討するに当たりまして、各校の皆さんには実際に北区で部活動の地域連携をやる際にはご協力いただけますかという事前アンケートを取らせていただいています。それぞれ学校さんの事情があつたりとか、今回、東洋の先生に今お越しいただいていますけれども、実際こういうところだと連携できるよとか、こういう枠組みだったら大丈夫とお話いただいているところもあります。そこが、例えば、部活動の指導員であつたり補助員だと、どうしても時間が決まっていたり、区側のニーズがあるところに入っていただくので、マッチングが効くのかどうかという課題があります。

渋谷のような形でローテーションで定期的に入るような大学もあれば、そういうような、ゼミがなかったりとか、体制がなかったりという大学もありますので、これはやっぱり地域差といいますか、それぞれの関係性のところだと思いますが、北区としてはいろいろな大学さんとも関わりながら、この仕組みを進めていければいい

いなというふうに考えています。

○委員

分かりました。

○会長

そういうところができるところは、ぜひできればいいかなと思います。
ほかにいかがでしょうか。

(なし)

○会長

皆さん、貴重なご意見、ありがとうございました。いただいたご意見につきましては十分検討させていただきたいと思います。

最後になりますけれども、次第の5、その他報告事項です。事務局から何かありますでしょうか。

○事務局

次回の会議ですが、10月を予定しております、本日皆様から回収させていただきました日程調整表を基に、今月中に皆様に発表できればと思います。また、スケジュールを確定されていない方については、近日中に私のほうへメールでご回答いただければと思っております。よろしく申し上げます。

以上です。

○会長

以上をもちまして、本日の予定の議題は全て終了いたしました。全体を通して何かございますでしょうか。

(なし)

○会長

ないようでしたら、第2回検討会議は以上で閉会とさせていただきます。

会議も残すところ、あと2回となりましたけれども、計画策定に向けて引き続き皆様のお力添えをいただければと思います。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。